館報 たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,861人
男子	3,359人
女子	3,502人
世帯数	2,153戸

（16年4月末現在）

地域特色に立った活動をめざして

知りあって 触れあって 学びあおう

公民館委員総会

四月三十日、公民館委員総会が開催され、今年度の基本方針、事業計画、予算を決定し、新年度がスタートしました。また会議に先立ち、長年にわたり公民館活動に尽力された方々の表彰も行われました。

決意を新たに

公民館長　**木下陸奥**

今年度は、話題を呼んでいる合併問題に伴って生じた「自治組織協議会・まちづくり委員会」の構想の中へ、確かな実践を通して、永劫につながる理想的な公民館の姿を確立する年であります。

そのために、公民館の過去の実績を正しく評価し、理念を踏まえ、竜丘の地域発展のために、真剣に取り組み、実績をあげることができるよう努力していきたいものです。

幸い、地域住民自治を推進していく主役的存在である「竜丘自治協議会」が、地域の伝統的気風を基盤にして、斬新的な視野にたって積極的に地域をリードされていることは、実に有難いことであります。

公民館は、こうした地域基盤にたって、自治会をはじめ各種団体や諸機関と十分連携を図って、事業を推進していくことが、極めて重要なことであります。

そうした立場にたって、地域の歴史・文化等の「学び」の提供、地域の方々の地域意識を高める「交流」の場の設定、また次代を託する青少年の健全な成長へつながる「地域教育力」の醸成などに、公民館委員総力を挙げて頑張っていきます。地域の皆さんのご協力を切にお願いいたします。

社会教育功労者表彰

文化委員長　下平武彦

今年度も文化委員会では「丘のみちしるべ」を積極的に活用し、竜丘の自然や文化に触れ歴史を学び、また地域住民の交流の場を幅広く提供していきます。

〔事業〕
・親子ふれあいハイキング（春、秋）・人形劇フェスタ・ふるさとコンサート（ピアノとフルートの調べ）・文化祭・ニューイヤーコンサート・市民大学講座（四講）・親子ふれあい映画会（小PTA合同開催）。特に市民大学講座、文化祭の特別企画展では竜丘の自由教育をテーマに計画しております。一人でも多くの皆さんの事業参加を期待しております。

体育委員長　清水美彦

各分館との連携により、子どもを含めた多くの地域住民が参加し、楽しめる体育活動を企画運営いたします。

各地区の対抗種目としては綱引き大会、ソフトバレーボール大会、ドッチビー大会を行います。ドッチビー大会は二回目で歴史も浅く、競技人口も少ないですが、大会として定着出来るよう地域に普及させていきます。

「親子の広場」の一環として、年二回の親子ふれあいハイキング（文化との合同事業）と親子スキー教室を行います。スキー教室は親子でのんびり出来る数少ない機会かと思います。ぜひ多くの方の参加をお願いします。

体育委員会最大の事業である市民運動会は昨年多くの種目の変更を行いました。今年も多くの方のご意見を参考にし、楽しい運動会が開催できるよう、企画を検討します。

各事業に参加された皆様が楽しんで頂けるように体育委員一同頑張りますのでご協力をお願い致します。

民俗資料保存委員長　林正己

失われてからでは、取り返しのつかない貴重な有形無形の民俗資料収集保存の活動は、地域の皆様の協力なしでは行えません。先人が知恵と努力の末に造り出した用品道具などを永く後世に伝えるための活動を続けてまいります。老朽化の進む資料館の今後のあり方、常設展示の検討も進めてまいります。藁細工などの技術の保存にも力を入れ、更には古い写真収集を行ってまいります。特に学校の平屋当時の写真を探しております。「こんな物はしょうがない」と捨てられる前にご一報をお願いいします。

表彰

長年の公民館活動の功績に対し、平成十六年度の社会教育功労者として、七名の方々が表彰されました。

上條海八郎さん（桐林）
分館長　平成五年
監査委員
平成七年～一五年
（通算一〇年）

塚平　正廣さん（時又）
分館長・監査委員
平成四年～一五年
（通算一二年）

木下　和子さん（上川路）
民俗資料保存委員
昭和五六年～平成一五年
（通算二三年）

小林　聖さん（長野原）
分館主事
平成一〇年～一五年
（通算六年）

林　洋一さん（桐林）
体育運営委員
平成一二年～一五年
（通算四年）

伊東　正直さん（駄科）
文化協力員
平成一二年～一五年
（通算四年）

松本純一郎さん
竜丘コーラス指導者
昭和六三年～平成一五年
（通算一七年）

平成16年度　竜丘公民館委員名簿

館長　**木下陸奥**

正・副分館長	駄科	大蔵敏夫
	駄科（副）	田中善太郎
	長野原	小林泉
	時又	山田安美
	桐林	小林積
	桐林（副）	小笠原明利
	上川路	木下武
分館主事	駄科	沢柳実也
	長野原	
	時又	平林泰雄
	桐林	原芳男
	上川路	森義宏
文化委員会	委員長	下平武彦
	副委員長	田中治
	駄科	池上勝男
		鎌倉和敏
	長野原	大平文明
		峰尾辰義
	時又	山田良彦
		筒井洋子
	桐林	林郁夫
		下平英敏
	上川路	小林良彦
		塩沢勝久
	文化協力員	熊谷且至
		伊原広隆
		塩澤正憲

体育委員会・体育指導員	委員長	清水美彦
	副委員長	林厚
	指導員長	松枝彰人
	副指導員長	原田照子
	駄科	長江博樹
		中島孝文
		○久保田勉
	長野原	鎌倉広志
		三矢敦司
		○宮下秀美
	時又	井坪秀夫
		久保田修司
		○北澤崇
	桐林	森英雄
		勝又和志
		○鈴木運友
	上川路	木下義博
		長谷部辰三
		○塩澤恵治
	体育協力員	西村英和
		吉川博則
	市体育指導員	斉藤たせ子

○印：体育指導員

広報委員会	委員長	齊藤浩
	副委員長	林健吾
		中田信和
	委員	下平恒男
		塚平賢志
		橋爪辰彦
		今村篤子
		増田正昭
		下平千俊
		塩沢和至
		久保敷春雄
民俗資料保存委員会	委員長	林正己
	副委員長	今村文一
		今村春子
	委員	今村周巳
		下平隆司
		牧内利郎
		塩澤岩恵
		山田安美
		河井篤子
		今村悦夫
		下平久雄
		小林泉

運営審議会　◎委員長 ○副委員長

時又	◎河井辰雄	駄科	塩澤隆
駄科	下平隆司	桐林	岡村巧
長野原	塩沢晴子	上川路	木下玲子
長野原	原田忠治	市議	○中島武津雄
時又	杉本博子	竜丘小	池戸昭夫

企画会議

正・副分館長　分館主事　各委員会正副委員長
青年会代表　◎議長　山田　安美（時又分館長）

監査委員

時又	今村理則	駄科	増田信義

ヤブ蚊

何か新しい取り組みに挑戦しようとするとき、一人ひとりの力は小さいのでなかなか目標まで達成することは難しい。しかし「～ぐるみ」で活動すると大きな力となり目標を容易に達成できる。

先日の新聞記事に、飯田市が「自治体環境グランプリ二〇〇四」で、環境大臣賞とグランプリを同時受賞したとの記事があった。今やISOや環境という言葉も、すっかり耳なじみになり、全く違和感が無くなってきている。

さて、今回の受賞は、個の活動になりがちな環境保全活動を、市民・企業・行政が連携した独自の環境マネジメントシステム「いいむす」などを通じて、「地域ぐるみ」の運動として広げていったことが評価されたからとのことである。

ところで、地域ぐるみの活動には自発的で主体的な住民の参加は当然欠くことができない。いかに一人ひとりの「ぐるみ意識」を高めるかが課題となる。

地域に存在していながらも忘れ去られかけてしまっているもの、ここにしかない魅力・資源を再発見するために「あるもの探し」の場を提供することが大切ではないかと思う。それにより一人ひとりの住民が、地域に対する愛着や誇りをもてるようになり、地域全体の活力向上につながるのではないかと思う。

新しい地域自治の仕組みが論議されている今、私たち一人ひとりが主体的に地域のあるべき姿を提案し、竜丘地区に合った仕組みづくりをし、地域ぐるみの活動を実践していくことが求められています。

三村との合併に向けて
市政懇談会開かれる

五月十一日、飯田市市政懇談会が竜丘公民館において開催されました。昨年、喬木村・上村・南信濃村から市町村合併の協議の申し入れを受け、一市三村で開催されてきた任意合併協議会の、協議結果について説明する場として設けられました。合併に伴う様々な課題や、地域自治組織における公民館のあり方などについて、約二百人の参加者が熱心に意見交換を行いました。

冒頭に、古井助役より、合併の基本的な方針として、合併により市の主体性を損なわないこと、合併を契機に新たな住民自治の仕組みに取り組むこと、今後、市民の大方の理解を得たら市議会を経て法定合併協議会へと話を進めていく、とのあいさつがありました。地域自治組織については、別の機会を設け地域の人たちと考えるとし、具体的な説明はありませんでした。

これに対し会場から、公民館のあり方に不安を感じる質問があり、木下公民館長から「地域自治組織を課題に感じ集まった参加者が多い。地域自治組織について地域との話し合いの場を設けることを確約して欲しい」との意見に「公民館は歴史もあり評価もされている。あり方について、今後の話し合いを起点としていきたい。一回や二回ですむ話ではないので、腹をくくって議論していく」との回答がありました。

主な協議結果としては、

○合併は編入方式で新市名称は飯田市とし、事務所は飯田市役所とする。

○議員定数は合併後、現行の飯田市の定数と同数となる。

○三村の役場は支所とする。

○合併後の住民サービスの水準は、飯田市のレベルとするため、サービス内容や市民負担に変化はない。

などの説明がなされました。

なお、福祉や保育事業など、市と三村で対象者や費用負担などに大差があるため激変緩和措置を行い、その後は地域自治組織の交付金に算定し地区で対応してもらうとのことでした。

また、合併する村民の不安に配慮し、役場は支所とし、合併直後は約二十人、その後十数人の職員を配置するとのことでした。

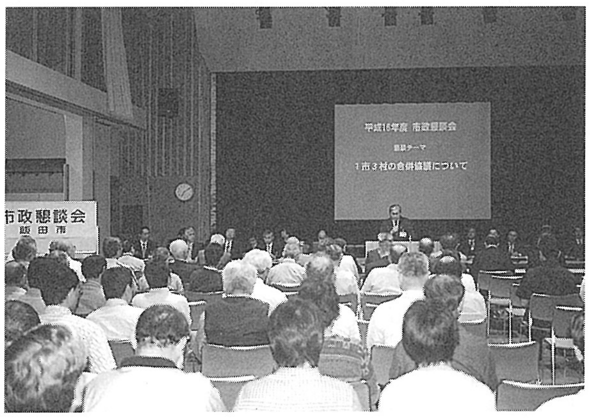
財政運営では、長期にわたる収支推移の説明がありました。合併し合併特例事業約二百億円を実施した場合でも、一八年後約七十一億円の基金残高を見込めるとのことでした。

合併について会場から「なぜ合併するのか具体的な説明を」の問に、「一郡一市を掲げ進める中で、まず四市村で合併する。地方の経営が厳しい中、隣の村が苦しみ飯田市だけ良ければという時代ではない。一緒に考えたい」と説明がありました。

また、合併特例債の具体的な説明を求めた質問に対して、「特例債のために合併するのではないが、合併するなら有利な特例債を活用する。事業は法定協議会設置後の新市建設計画で具体的になる。三村の時間的な距離はまだ遠いので交通や情報網などを整備する事が大切だ」と述べました。

最後に下平自治協議会長から「一郡一市の大きな構想の過程であるので、三遠南信に重点を置きすぎないようにして欲しい」と意見がありました。

公民館のあり方について、その活動を評価し、地域自治組織の見直しの中で検討していく事が確約されました。自治の意識の高まりを、学びの中から育ててきた公民館。その役割を再認識し、行政効率の議論だけではなく、人づくり・地域づくりに対する理念を、行政と地域が共有し、地域自治組織という器を考えていくことが大切ではないでしょうか。


平成16年度 市政懇談会
1市3村の合併協議について
市政懇談会
飯田市

ふるさとに寄せる思い
◆東京竜丘会◆

東京竜丘会の第八回総会（ふるさと竜丘の集い）が、去る五月二十二日に、千代田区九段のホテルを会場に開かれました。

東京竜丘会は、首都圏に在住する竜丘出身の方で構成されており、二年に一度総会を開催しています。

今年は約百名の会員が出席する中、地元竜丘からは自治協議会、公民館、農協などから関係者十八名が、野菜、きのこ、塩いかなど郷土の味を手みやげに駆け付けました。また、駄科南平獅子保存会の皆さんが全日程で参加した他、駄科下平獅子舞保存会と鈴岡太鼓の皆さんが、アトラクションのみに参加しました。

懇親会の来賓挨拶の席で下平自治協議会長は、三村との合併やそれにともなう諸問題など、郷里竜丘の現状を伝えたあと、東京竜丘会の皆様に、日頃からふるさと竜丘に寄せていただくご支援に対し、感謝の言葉を述べました。

乾杯の発声からしばらくし、駄科南平獅子の勇壮な舞が披露されるころには、飯田弁を交えながら昔話しに花を咲かせる光景が見られるようになりました。

その他、アトラクションに参加の駄科下平獅子は宴の中ごろに、鈴岡太鼓は終わりに登場し、二年に一度のふるさと竜丘の集いを盛り上げました。

最後は、参加者全員で小学校校歌を歌い、閉めとなりましたが、目で、耳で、舌で故郷をなつかしむ楽しいひとときとなりました。

郷里を離れ生活している方々が、ふるさとに寄せる思いを強く感じる一日でした。会員の皆様の、ますますのご活躍をお祈りいたします。

全員で校歌の大合唱

歴史、自然を満喫
親子ふれあいハイキング

五月十五日（土）、五月晴れのもと、竜丘親子ふれあいハイキングが開催されました。

今年は、児童センターの事業の遠足をこのハイキングに合わせたこともあり、親子連れを中心に八十名の方が歩きました。

コースは、古墳群や秘境がある時又、上川路、桐林にかけて歩きました。

公民館を出発後、嶋公園に復元された大座二号古墳の石室を見ました。一昨年に時又駅南側で発掘され、後世に残すために復元されたものです。子どもたちは石の上に登ったりし、もの珍しそうに見ていました。

次に昨年末から通水が始まった竜丘浄化センターを見学しました。職員の方が処理方法を丁寧に説明してくれました。浄化には、微生物のバクテリアが活動してます。この活動を妨げる物を下水道に流さないで欲しいとのお願いもありました。親子で環境を考えるきっかけになったのではないでしょうか。

センターの後は、馬背塚古墳へ行き休憩。そして臼井秘境へと入って行きました。田んぼのあぜ道、林の中、沢の横を歩く道のりは自然がいっぱいです。子どもたちは野に生える植物を手にとったり、ヘビを見つけたら大騒ぎをしてました。昼食の後、匠の里KOAの近くの塩沢さん（桐林）の池で、貴重なメダカを観察し竜丘公民館へ戻りました。

歴史、自然を満喫しながら、環境も考えた今回のハイキング。素朴ながら改めて郷土の素晴らしさを感じました。

自然を満喫する参加者

平成15年度竜丘公民館地区費決算報告

区分	行為NO.	項目	本年度決算額	本年度予算額	比較	説明
歳入	1	前年度繰越	332,643	332,643	0	
	2	地区費	2,599,500	2,550,000	49,500	前期1,743戸×750円、後期1,683戸×750円、過年度7戸×750円
	3	補助金	150,000	150,000	0	自治会より（成人式；150,000円）
	4	雑収入	70,013	229	69,784	運動会・文化祭ご祝儀、預金利息ほか
		合計	3,152,156	3,032,872	119,284	
歳出 総務費	5	報酬	215,000	215,000	0	委員報酬地区費負担分：注1）
	6	賃金	59,000	59,000	0	用務員賃金
	7	交際費	50,520	60,000	-9,480	館長交際費
	8	消耗品費	62,228	100,000	-37,772	事務・事業用品
	9	会議費	179,469	220,000	-40,531	委員会等一部補助
	10	食糧費	255,657	240,000	15,657	反省会等飲食代一部補助
	11	修繕費	21,829	30,000	-8,171	公民館展示レール、体育館窓ガラス
	12	維持・管理費	70,615	50,000	20,615	公民館清掃謝礼、白布クリーニング代ほか
	13	通信運搬費	2,752	15,000	-12,248	郵送料
	14	使用賃借料	50,800	50,000	800	バス借上料、会場使用料
	15	研修費	50,000	50,000	0	委員研修
	16	負・補・交	234,500	245,000	-10,500	団体負担金、各種大会参加補助：注2）
		計	1,252,370	1,334,000	-81,630	
歳出 事業費	17	成人式	220,616	200,000	20,616	記念事業、記念写真、祝賀会一部補助ほか
	18	運動会	519,490	550,000	-30,510	用具更新、賞品代、賞金ほか
	19	文化祭	270,959	250,000	20,959	物品借上料、消耗品費ほか
	20	体育大会	197,999	200,000	-2,001	分館参加賞、審判昼食代、用具代、スキー教室一部補助ほか
	21	文化事業費	38,537	140,000	-101,463	ハンドベルコンサート、ニューイヤーコンサート事業費ほか
	22	その他事業費	115,668	200,000	-84,332	学級・講座、ブロック事業、他各種事業費
		計	1,363,269	1,540,000	-176,731	
	23	予備費	536,517	158,872	377,645	平成16年度4～7月運営費
		合計	3,152,156	3,032,872	119,284	

差引残高 536,517円は、平成16年度へ繰越し

平成16年3月31日　竜丘公民館長　木下　陸奥

《監査報告》

平成16年4月20日監査しましたところ、証拠書類等整理され適正なる処理がされていることを認めました。

監査委員　塚平正廣　上條海八郎

人事

厚生担当
木村　喜美子

四月から、社会福祉協議会、民生児童委員会等の、厚生事務を担当させて頂いております。

竜丘地区の方々のパワーを日々感じながら、早く皆様のお役にたてるよう、明るく元気にがんばります。どうぞよろしくお願い致します。

保健師
高山　由美

竜丘地区が「安心して暮らせ、活気ある地区」であるように、健康づくりを通じてお役に立てればと思っております。主な担当は健康づくりのお手伝いとなりますが、他の分野につきましても皆様よりご指導いただけますよう、よろしくお願い致します。

転出

小林　洋子さん（保健師）
保健課へ
森下　美紀さん（厚生担当）
市立病院庶務課へ

お世話になりました。